

マレーシア研修旅行

- IT を活用して -

京都府立北稜高等学校 教諭 神脇順子

1. はじめに

京都府立北稜高等学校では、「自分で考え、自分で表現する」「地球と人間」という2つのテーマの下に、環境理解行動計画 (Ecology Wing Plan) と国際理解交流計画 (Communication Wing Plan) という2つの翼を掲げ、教育課程を含める様々な教育活動にこのテーマを共通の課題や目的とし、生徒の育成にあたっている。その中で、第Ⅱ類文理系1年生の80名にマレーシア研修旅行を実施し、交流校であるスリ・ガーデン校 (Sekolah Sri Garden) での学校間交流・ホームステイ等を行っている。また、今年度はスリ・ガーデン校から、35名の生徒・教員を受け入れ、学校間の相互交流がスタートした。



写真1 京都府立北稜高等学校



写真2 交流校 スリ・ガーデン校

2. 学校間交流における IT の活用

2. 1 事前学習における IT の活用

(1) インターネットを活用した調べ学習

(2) 3教科間のタイアップによるプレゼンテーション

情報理解 (情報C)・北稜エッセイ (総合学習)・Active English (学校設定科目) の共同プロジェクトによる、「日本文化・北稜高校紹介のプレゼンテーション」の取り組み

(3) テレビ会議

国立京都国際会館で行う“MALAYSIA DAY”で、前年度の体験生徒が交流校の友人たちと再会する様子を見学

(4) 電子メールによるやりとり

2. 2 事後学習のなかでの IT の活用

(1) テレビ会議

研修旅行後、なつかしい友人たちとの再会

(2) 電子メールによるやりとり

今後の英語学習への動機付け



写真3 テレビ会議



写真4 マレーシアデー



写真5 プレゼンテーション

3. マレーシア研修旅行における I T活用の効果

(1) 生徒の意欲の向上

テレビ会議・電子メールを用いて、リアルタイムのコミュニケーションが可能になり、英語学習・異文化交流への意欲が向上した。

(2) 教科間の相互理解

情報理解 (情報C)・北稜エッセイ (総合学習)・Active English(学校設定科目)の3科目での取り組みを通して、I Tに対する共通理解と教科間の相互理解・協力を得られた。

(3) 学校間交流のコミュニケーションツール

学校間交流のプログラムの中に両校が I T機器を活用したプレゼンテーションを盛り込んでおり、年間を通じた学校間の連絡も主に電子メールを用いて行っている。

(4) 次世代に生きる生徒の育成

生徒たちの学習活動の中で I T機器を積極的に活用することで、生徒たちの興味・関心を引き出し、学習活動の幅を広げることができた。さらに、I T社会を担う人材を育成する上でも学習活動に I T機器を効果的に活用することは重要である。



写真6 北稜高校での学校間交流



写真7 テレビ会議 テストラン



写真8 北稜高校での学校間交流



写真9 両校間の絆